

令和元年 第3回定例道議会 9月24日 一般質問

～北海道議会 会議録より～

二. SDGs推進のあり方とフェアトレードタウン認証について

質 問	答 弁
<p>(一) SDGs推進のあり方について (広田議員)</p> <p>令和元年7月1日に、今年度のSDGs未来都市が31自治体選定されました。昨年は、北海道とともに、札幌市、ニセコ町、下川町が選定されましたが、今年度、北海道における新たな申請はゼロでした。</p> <p>また、昨年、道内で選定された他の自治体と比較しますと、札幌市は例えば、市議会で全会一致の決議、そして市長の推進宣言などを経て、国内5番目となるフェアトレードタウンの認証を受けました。下川町は自然資本という新たなものさしの自治体経営への導入が進められています。また、ニセコ町での共感コミュニティ通貨eumoの実証実験のスタートも、つい先日発表されたところです。SDGs未来都市として、他の自治体は世界にも、発信できうる強いコンセプトがあります。</p> <p>知事は、SDGs未来都市として、何を実現していこうと道内外に発信していくお考えか、伺います。</p> <p>また、道内自治体において、今年度の新しいSDGs未来都市の申請が一つもなかったことを、道としてどのようにうけとめ、その上で道内市町村とともに共有できる持続可能な発展を実現するための到達目標を具体的に掲げるべきと考えますが、知事の見解を伺います。</p>	<p>(総合政策部長)</p> <p>最初に、SDGsの推進についてでございますが、道では、北海道SDGs推進ビジョンを策定しまして、多様な主体の方々と広く共有を行いながら、豊かな自然環境など北海道が世界に誇れる価値と強みを様々な取組に活かし、SDGsを推進することで、世界の中で北海道の存在感を高めますとともに、将来にわたって安心して住み続けられる地域社会の形成を目指してございます。</p> <p>また、各市町村では、国が選定をいたします「SDGs未来都市」の活用をはじめ、各種計画への反映や企業等との連携など、それぞれの地域の実情に即した取組を進めているところでございます。</p> <p>道といたしましては、全道各地域におきましてセミナーを開催するなどして、市町村をはじめ企業・団体、NPO等とビジョンを共有しながら、効果的な情報発信や連携・協力関係の構築をさらに進め、持続可能な地域づくりに向けた施策を着実に推進してまいります。</p>
<p>(二) フェアトレードタウンの認証について (広田議員)</p> <p>フェアトレードタウン認証の重要性について伺います。</p> <p>道として、フェアトレードタウンの認証や、フェアトレード運動を支援することは、まさに、SDGsの理念を、道民のみなさんの日常の暮らしや消費行動につなげていきたいへん有意義な取組と私は考えます。</p> <p>SDGs未来都市北海道として、フェアトレードタウン認証の今日的な意義について、どのように認識しているのか伺います。</p> <p>また、フェアトレード運動について、道としてどのように把握し、その推進に向けて果たすべき役割をどのように認識しているのか、現時点での所見を伺います。</p>	<p>(総合政策部長)</p> <p>フェアトレードについてであります。開発途上国の農産物などを公正な価格で取引することで、生産者や労働者の方々の生活改善と自立を支援するフェアトレードは、SDGsの達成にも貢献する国際協力であり、フェアトレード・タウンの認証は、こうした活動を地域に根づかせるためのひとつの取組と考えてございます。</p> <p>本道におきましては、札幌市や旭川市におけるフェアトレードの啓発等を目的としたフェスタの開催のほか、先般、フェアトレードを推進する大学として北星学園大学等が認定されるなど、活動が広がっております。</p> <p>道といたしましては、今後とも、フェアトレードの普及に向けまして、道内の大学や団体が取り組む活動をサポートするとともに、道民の国際理解の促進や国際貢献に対する意識の醸成、さらには、社会、環境などに配慮した消費行動の広がりに努めてまいります。</p>
<p>【再質問】 (一) SDGsについての知事の認識について (広田議員)</p> <p>総合政策部長のご答弁では、ビジョンを策定しました、そのビジョンを共有して、将来にわたって安心して住み続けられる地域社会の形成をめざしている、とのお答えでございました。</p> <p>私が知事に求めたのは、下川やニセコなどのように、象徴的なコンセプト、こういう北海道をつくりたいというコンセプトを明確にし、それを発信すべきではないかということです。</p> <p>知事ご自身は、SDGsの推進の意義について、どのような認識を持ち、SDGsのゴールの中で何を重視し、どのようにそれを発信していくお考えか、伺います。</p>	<p>(知事)</p> <p>SDGsの推進についてであります。北海道の価値と強みを活かし、SDGsを推進することは、本道の持続可能な地域づくりにつながるものと考えており、それぞれのゴールを目指してSDGs推進ビジョンに掲げた、「安全・安心を実感できる社会の形成」、「環境・エネルギー先進地の実現」、「価値と強みを活かした経済成長」、「未来を担う人づくり」、「個性あふれる地域づくり」の5つの優先課題とその対応方向について、様々な機会を活用した情報発信や普及啓発などを通じて、多様な主体の方々と広く共有しながら、北海道全体でSDGs推進に積極的に取り組んでまいります。</p>

二. SDGs推進のあり方とフェアトレードタウン認証について

質 問	答 弁
<p>(二) ビジョン共有のあり方について (広田議員)</p> <p>道はセミナーなどを開催し、市町村をはじめ、企業・団体・NPO等とビジョンを共有する、とのこと答弁でしたが、セミナーの開催で本当にビジョンが共有されるのでしょうか。</p> <p>私がフェアトレードタウンについて、SDGsの観点からとりあげたのは、SDGsがいけば、国連、官邸が主導した運動であるのに対し、フェアトレードタウン運動は、イギリスのガースタングという5,000人の小さなまちから始まり、世界2,000箇所にまで広がった草の根運動だからです。</p> <p>道内の市町村の事例では、フェアトレードのチョコレートを、町民の皆さんが選んだまちの風景でパッケージする陸別町のまちチョコや、エソシカをフェアトレードのスパイスで味付けして高付加価値化を図った鹿ジャッキーなどがあります。</p> <p>この機会に、フェアトレードの産品と北海道の地場の産品を合わせ、世界的な貧困問題の解決にコミットしながら、地域の中小企業の振興につなげることを支援するのは、画期的な取組ではないでしょうか。</p> <p>まず、知事自らが、17のゴールのうち何を重点に取り組まれるのか、Twitterなどの発信も含めて明らかにされるのと同時に、それぞれの部において、各部長が、SDGsのどのゴールに向けて何を実現しようとするのか、知事とともに宣言などを行うことによって、道庁組織内外に対しビジョンの共有を図ることも、広域自治体である北海道のトップマネジメントとしての責任と考えますが、再度見解を伺います。</p>	<p>(知事)</p> <p>SDGsの取組についてではありますが、私を本部長とするSDGs推進本部のもと、ビジョンに掲げるめざす姿や優先課題を庁内で十分共有し、SDGsの理念や目標を各種計画へ反映するなどして、関連する施策を着実に実施するとともに、全道的な組織であるSDGs推進ネットワークを活用した取組事例の共有や、SNSによる情報発信などを通じて、多様な主体と連携・協力関係を一層深めながら、官民一体となってSDGsを推進してまいります。</p>
<p>【指摘】SDGsについて</p> <p>知事から御答弁をいただきましたが、まず、SDGsに関してです。私は、SDGsをどうするかというよりも、SDGsでどんな変化、どんな新しい未来を北海道に築こうとしているのかというお答えをしていただきたかったわけです。</p> <p>今のお答えであると、SDGsをどうするか、どう対応するかというお話になっておりまして、SDGsで何を表現していくのか、別にSDGsが全ての万能薬ではありませんけれども、知事が目指していこうとする新しい政策形成などにおいて、試験的にいろいろな取組をすることができるのではないかとということで、SDGsについて、強く何度も重ねて質問させていただいております。</p> <p>本来であれば、SDGsのビジョンなども、白紙で住民の皆さんと一緒に作り上げるのが、私としては必要だったと思いますが、残念ながら、道議会の様々な議論も踏まえて、道庁で急いで、先ほど知事がおっしゃった5つの柱を決めて、SDGsのビジョンを作られたわけでありましてけれども、これから地方に展開するに当たっては、やはり、先ほど申し上げたように、知事は、SDGsを使って何を北海道に表現していくのか。小さな取組でもいいから、そうした実践が必要だと思っておりますし、各部長においても、そういう発信を外に向かってしていくことが、道庁組織のこれからにとっても必要だと思っておりますので、指摘とさせていただきます。</p>	